

令和4年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立加納中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年、原則として全生徒

3 調査実施日

令和4年4月19日(火)

4 調査の内容

(国語、数学、理科) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校調査は、国語，数学，理科とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。 	
	【中学校 国語・数学・理科 各50分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

中学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	6	63.4	72.2	72.2
情報の扱い方に関する事項	1	51.8	48.3	46.5
我が国の言語文化に関する事項	3	69.6	71.6	70.2
話すこと・聞くこと	3	57.2	64.3	63.9
書くこと	1	51.8	48.3	46.5
読むこと	2	62.0	69.2	67.9

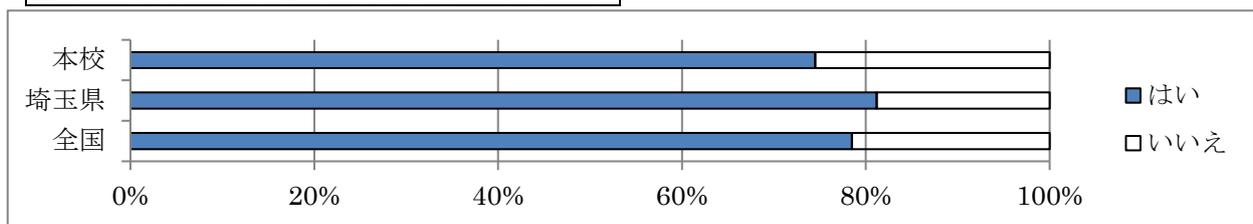
数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	41.6	56.9	57.4
図形	3	34.8	44.2	43.6
関数	3	36.0	44.3	43.6
データの活用	3	50.1	58.2	57.1

理科				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
「エネルギー」を柱とする領域	6	33.5	41.1	41.9
「粒子」を柱とする領域	5	48.0	50.5	50.9
「生命」を柱とする領域	5	49.9	57.9	57.9
「地球」を柱とする領域	6	37.6	44.1	44.3

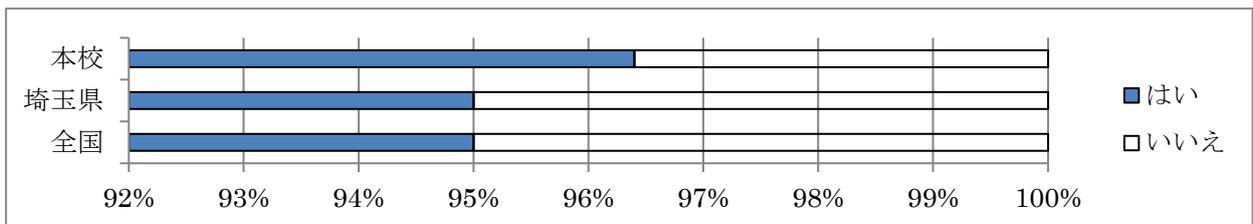
＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

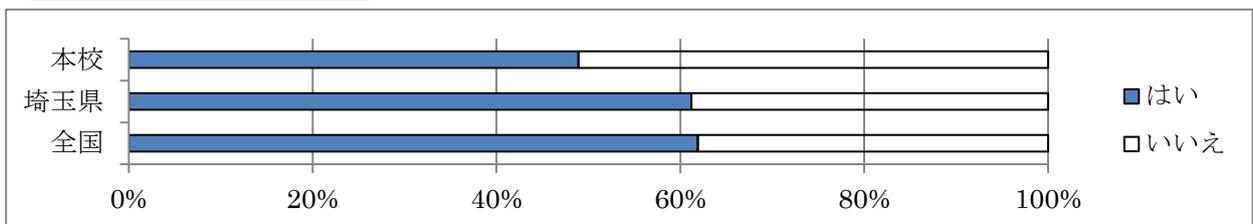
自分には良いところがあると思いますか。



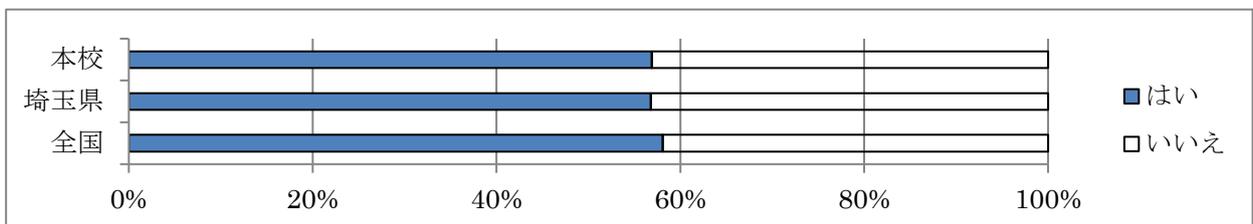
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



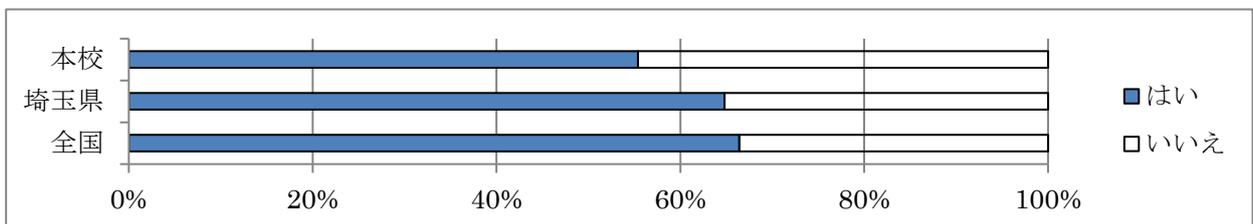
国語の勉強は好きですか。



数学の勉強は好きですか。



理科の勉強は好きですか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【領域別】

本校正答率は「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」の領域が、県・全国平均正答率を上回りました。これは、自分の考えを様々な方法や手段で表現させてきたことが要因として考えられます。

一方で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の領域が、県・全国平均正答率を大きく下回りました、理解度の把握・学習習慣の定着のために、語句・表現技法の小テストを繰り返し行っていくようにします。

【問題（例）】

問題例 小林さんは、上野さんと中村さんからの【コメントの一部】を踏まえて、で囲まれた「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。

条件1 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を引用して書く

条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

正答 農林水産省のウェブページにある資料には、作業の自動化以外に「情報共有の簡易化」と「データの活用」が示されている。

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題でした。本校正答率は、全国平均正答率よりも5ポイント上回っており、「根拠を大切に、相手を意識して伝えること」や、定期テストや小テストにおいて「指示されていることに応える」ことを意識させていることが理由として考えられます。

【問題（例）】

問題例 「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書きなさい。また、それと同じ表現の技法が用いられているものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 「ただ、と、おれは思う。」
- 2 「ブルーシートを地面に広げ、真ん中に立てた大きなパラソルの下で涼む人。」
- 3 「猫のように素早く手を出し」
- 4 「もっともっと前の話だと説明する。」

正答 比喩 3

表現の技法について理解しているかを問う問題でした。本校正答率は、全国平均より25ポイント下回っており、同じ表現を記号で選択できていても、表現の技法の名称を答える場面で誤答が多くなっていました。名称については、比喩・直喩・隠喩などの言葉の違いを理解できていないと考えられ、言葉と言葉の関係を理解させる必要があります。

<数 学>

【領域別】

本校正答率は「数と式」の領域が、県・全国平均正答率を15ポイント下回っており、「関数」「データの活用」などの他の領域よりも大きく下回っていました。基本的な計算ができていない生徒が例年に比べて多く、それを何とかしなければという危機感も少ないようです。計算問題を多く行い、基礎基本の定着に努めていますが、諦めてしまうこともあるので、前向きな気持ちを持たせるような工夫を行っていきます。

【問題（例）】

問題例 図1, 図2のヒストグラムの特徴をもとに、より長い時間回りそうなコマを選ぶとすると、あなたならどちらのコマを選びますか。どちらか一方のコマを選びなさい。また、そのコマを選んだ理由を、2つのヒストグラムの特徴を比較して説明しなさい。どちらのコマを選んで説明してもかまいません。

正答 コマAの回った時間の方がコマBの回った時間より55秒以上の階級の度数の合計が大きいため、コマAの方がより長い時間回りそうなコマである。だから、コマ回し大会ではコマAを選ぶ。

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題でした。本校正答率は、全国平均正答率よりも0.9ポイント下回っています。グラフの見方や考え方をきちんと身に付けていると正答できたようですが、直感的な問題ととらえてデータをきちんと読み取らないことが誤答になっていると思われる。

【問題（例）】

問題例 差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になることの説明を完成させなさい。

n を整数とすると、差が4である2つの偶数のうち、小さい方の偶数は $2n$ 、大きい方の偶数は $2n + 4$ と表される。それらの和は、
 $2n + (2n + 4)$
=

正答 $= 4(n + 1)$
 $n + 1$ は整数だから、 $4(n + 1)$ は4の倍数である。したがって、差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題でした。本校正答率は、全国平均正答率よりも21ポイント下回っており、無回答率が35.8%でした。論理的な説明をする問題なので、すぐにあきらめてしまう生徒が多かったようです。実際に理論立てて説明する書き方を身に付けさせていくことが重要です。

<理科>

【領域別】

本校正答率は「エネルギー」や「生命」などの領域では、県・全国平均正答率を8ポイント下回っていました。一方、「粒子」の領域では2ポイント下回っており、他の分野より正答率が高かったです。「粒子」の領域では、教科書で見慣れた図や文章から出題されたものは、順序だてて考えることができていました。一方で「生命」の領域は、実験の流れや結果・考察から総合的に判断する必要があり、分析すべきポイントが絞れなかった生徒が多かったようです。

また、問題形式では、「記述式」の正答率が低くなっており、文章中からキーワードを抜き出すことが難しく、共通点を見いだせない生徒が多いことが考えられます。このことから仮説と考察に一貫性のある実験を組み立てる経験を多く積ませるよう、授業展開を見直すことが重要であると考えられます。

【問題（例）】

問題例 この水素を燃料として使うしくみの例では、水を電気分解して発生させた水素を使い続けるために、おおもとして **Y** が必要です。

空欄 Y に当てはまる適切な言葉を資料の図の中から選び答えなさい。

正答 太陽の光

化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる問題でした。本校正答率は、全国平均正答率より 0.7 ポイント下回っており、ほぼ同じ正答率でした。

出題された図や文章が教科書で見慣れた内容の組み合わせであり、順序立てて考えることが比較的容易でした。基礎知識の理解度は一定の水準にあるものの、問題文から結論を導き出す経験をより多く積ませる必要があります。

【【問題（例）】】

問題例

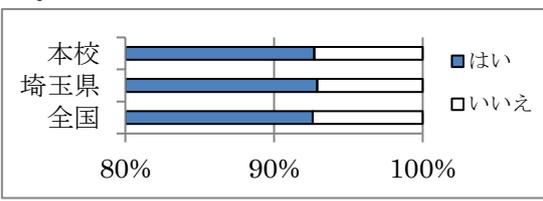
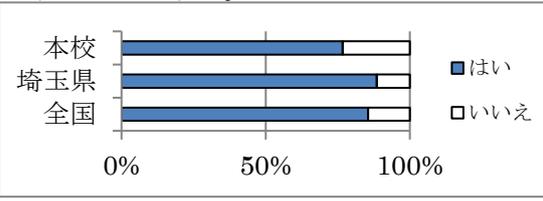
- ① 図のように行列を覆い、10 分間まわりの景色を見えなくする。
 - ② 覆う前後の行列のようすを写真に撮り、比較する。
 - ③ ①と②の操作を別のアリの行列で3回繰り返す。
- この実験の結果からは、アリの行列のようすは **P** ので、**Q** と考えられる。

正答 P 変化しない Q 視覚による情報をもとに行列をつくらない

アリの行列のつくり方を探究する場面において、実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる問題でした。本校正答率は、全国平均正答率よりも13ポイント下回っていました。

実験内容や実験目的を説明することが苦手な生徒が多いと考えられます。課題に対して予測される実験例をより多く実践し、実験目的と仮説、考察を結び付けて探求できるように授業展開を工夫していく必要があります。

<質問紙調査から>

<p>【(質問番号 36)】</p> <p>学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つとおもいますか。</p>  <p><分析></p> <p>昨年度からタブレットを活用した学習が本格的に行われており、全国や埼玉県と同等の結果となりました。また、質問紙の4択のうち、1番の「そう思う」と回答した割合は、全国が56.7%、埼玉県が58.3%なのに対し本校の割合は59.9%と高い数値になった。これは、今年度導入した「スタディサプリ」への期待が大きいと思われます。実際に家庭学習も含めての活用が本格化しており、教科での更なる有効活用と学力向上に努めたいです。</p>	<p>【問題番号 48】</p> <p>道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。</p>  <p><分析></p> <p>令和2年から3年間、「対話を通してよりよい生き方を考えることができる生徒の育成」を研究テーマに、道徳の授業改善に取り組んできました。研究2年目の結果としては、全国が85.5%、埼玉県が88.5%なのに対し本校の割合が76.7%なのは残念な結果でした。道徳の授業では常に、「自分の考えを深める取り組み」「話し合いの取り組み」を行ってきたが、今後も指導方法の改善に努め、生徒の『意識改革』と『主体的・対話的で深い学び』の実現に取り組んでいきます。</p>
--	--

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

令和4年5月11日（水）

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学 第2学年、第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

(2) 質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	13	59.5	61.7	13	56.1	55.8	12	59.3	65.2
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	56.7	59.3	6	57.8	58.5	7	54.8	60.8
話すこと・聞くこと・書くこと	5	50.7	53.8	4	53.4	56.5	4	47.4	49.9
読むこと	8	51.3	57.1	7	62.4	58.5	7	34.0	40.3
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑↑	↑↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

数学（内容は算数）	第1学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	12	55.0	60.8
図形	8	55.2	55.8
変化と関係	7	52.8	56.2
データの活用	5	47.6	55.4
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑↑	↑↑↑↑

数学	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と式	13	57.3	54.0	12	59.6	67.7
図形	6	51.9	47.9	8	45.2	51.9
関数	4	57.0	53.8	6	32.0	44.0
データの活用	7	64.0	55.6	6	48.5	55.8
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

英語	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	65.2	67.3	10	45.4	54.9
読むこと	18	58.6	60.6	18	54.0	62.8
書くこと	7	42.5	43.1	7	32.1	39.8
※学力の伸びた生徒の割合					↑↑↑↑	↑↑↑↑↑

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は80%以上 (%)

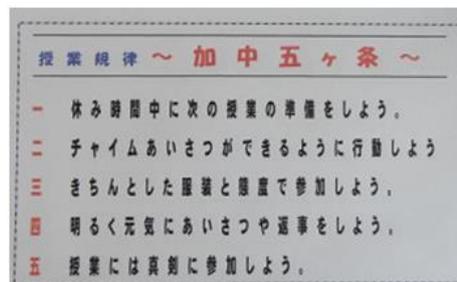
内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	97.7 94.3	96.1 94.0	96.3 95.1
	② 授業開始時刻	96.9 95.9	97.1 93.1	97.6 96.5
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	89.1 90.2	89.8 91.4	92.3 92.3
	④ 整理整頓	77.1 74.8	77.0 83.6	80.8 83.1
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	81.9 80.5	81.7 83.6	83.5 88.0
	⑥ 返事	88.0 84.6	86.6 85.3	88.3 90.8
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	91.2 87.0	90.5 88.8	92.2 93.0
	⑧ やさしい言葉づかい	89.3 87.8	88.1 87.9	88.7 86.6
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	91.9 83.7	91.2 88.8	92.5 90.1
	⑩ 話を聞き発表する	77.2 73.2	73.4 76.7	76.7 83.8
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	92.6 88.6	92.5 87.9	94.6 92.3
	⑫ 掃除・美化活動	85.8 79.7	84.3 87.9	85.8 91.5

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆1 授業規律の明確化

- (1) 教師と生徒が共通してそして各学年が授業の3分前着席に取り組んでいます。チャイムの開始と同時にあいさつを行い、授業に集中して取り組むようにしています。
- (2) 『加中五ヶ条』を作成し、授業規律に取り組んでいます。



☆2 加納中型授業スタイルの確立

- (1) 各教科で授業の目標やねらいを明確化し、つながりのある授業を行うことで、生徒が授業で学ぶ内容について見通しをもたせる取組を継続しています。
- (2) 授業の終わりに振り返りの時間を設け学習内容の理解や疑問点など確認します。

■3 「学び合いの活動」の充実

日々の授業の中にグループでの話し合い活動、思考ツール（考えの流れを見るための道具）の活用など、生徒が主体となる活動を取り入れ「学び合いの活動」を行っています。

■4 タブレットパソコン、電子黒板などICT機器の充実

学習意欲の向上・「学び合いの活動」の効率化を図るICT機器を、学習のねらいに応じて活用しています。また、本年度より「スタディサプリ」を導入し、基礎学力の向上と学習習慣の確立を図っています。

授業以外の取組

☆1 「時」「場」「礼」の生徒指導共通目標の推進（小学校との連携）

「時を守り、場を清め、礼を正す」を教師と生徒の共通目標として常日頃から取り組んでいます。

■2 朝読書の取り組み

朝の会の前10分間を読書の時間とし、本に親しむ時間とするとともに、落ち着いて授業を受ける状態を作っています。

■3 家庭学習の習慣化

家庭学習の習慣化を図るため、宿題や課題プリントの提出、また家庭学習ノートを作成して自主的に取り組ませるなど、習慣化に向けた取り組みを行っています。

☆4 補習の取り組み

定期テスト前には教科の質問や補習の時間を設定しています。

☆5 加納中学校区の加納小、桶川東小との連携

小学校に出向いてのあいさつ運動、小学6年生の中学校授業見学など、小・中連携を通じて「学力向上」に向けた実践をしています。

☆6 校内掲示・展示の充実

様々な活動の意欲を喚起したり、心に潤いをもたせるような生徒の優れた作品や取り組みの掲示・展示等を充実させたりしています。

☆…成果を上げたと考えられる取組、 ■…課題を解決するための取組

本校の学力向上プラン

令和4年度 学力向上全体計画

桶川市立加納中学校



改善の観点(具体的な取組)

	I	II	III	IV	V	VI	VII
改善の観点	指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	新教育課程への対応の工夫	学習評価活動の工夫	校内研修計画の実施と工夫	学校評価・検証の計画と実施	家庭や地域社会との連携の工夫
取組の基本方針	基礎的・基本的な知識・技能の定着と主体的な学びの研究に努める。	新学習指導要領を視野に入れた教育課程の編成に努める。	先行実施される内容に重点を置いた指導計画の立案とその実施に努める。	各教科の評価規程を明確にし、適正な評価に努める。	具体的に取り組む内容を明確にした上で、着実に実践し、検証を行う。	学校評価を生かし、根本的なことを重視すると共に、多面的で計画的、継続的な学校運営を目指す。	学校だよりや学年だより等の計画的、継続的な発行により本校の教育方針の啓発に努める。
課題解決のための具体的取組	○1単位時間の授業における工夫改善 ○協調学習等を取り入れた授業改善の取組 ○補習の実施 ○長期休業明けの確認テストの実施 ○校内実力テスト(年2回)実施と分析 ○スタディサプリによる学習教材の充実	○研究主題「対話を通してよりよい生き方を考えることができる生徒の育成」特に主体的に学ぶ姿を想定した指導計画の立案 ○総合的な学習の時間の指導計画の見直し ○道徳科への対応(授業・評価等の研究)	○教科横断的な知識技能の活用を意識した指導計画の作成 ○学び合いの有効活用 ○体験活動を積極的に取り入れた授業の取組	○授業後の振り返りや自己評価の方法の工夫改善 ○定期テスト後の振り返りを活用した学習目標の設定	○PDCAサイクルに沿った授業改善の取組 ○「分析支援プログラム」を用いた取組の検証と課題の設定 ○先行研究の検証 ○学習指導を中心に、他分野の実践研修の積極的実施	○学校評価の2回実施 ○保護者アンケートの実施 ○生徒の学校生活に関する意識調査の実施 ○学校運営協議会 ○県学力学習状況調査等の分析	○成績表、通知表の見直しと改善 ○定期テスト後の振り返り ○宿題の出し方の工夫と家庭学習ノートを活用した家庭学習習慣の形成
関連する行事等	・朝読書と朝学習 ・学力向上推進担当訪問での研究、公開授業 ・校内授業見学	・シラバス(加中の学び) ・ホームページ	・シラバス(加中の学び) ・ホームページ	・シラバス(加中の学び) ・ホームページ	・学力向上推進担当訪問での研究、公開授業 ・校内授業参観週間	・PTA総会 ・コミュニティスクール ・学年、学級懇談 ・学校公開 ・授業参観 ・学校だより	・学校公開 ・授業参観 ・PTA総会 ・家庭訪問、三者面談 ・学校、学年だより ・学校ボランティア

各教科学力向上プラン

※ 令和4年度に作成した「学力向上プラン」の概要を掲載する。

保護者・地域の皆様へ

本校では、令和2年度から「対話を通してよりよい生き方を考えることができる生徒の育成」を目指して道徳授業、特に「話し合い活動」に力を入れて取り組むとともに、昨年度からタブレットの本格な導入を契機にICTを活用した授業実践・学力向上にも取り組んでいます。今回の質問紙調査では「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」については、県、全国を下回っていますが、「自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動」については、全国の72.1%を10ポイント上回る82.5%の生徒が「はい」と解答しています。また、学力テストの結果を見ても、全国学力・学習状況調査では、国語の「情報の扱い方に関する事項」の領域、「書くこと」の領域で正答率が県、全国を上回りました。一概にICTの活用と国語の調査結果が結びつくとは考えませんが、いろいろな情報を集めて整理し、調べたことを進んで発表するなどの学習活動に取り組む意識が、多くの生徒に根付いてきた結果と思われます。引き続き、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向け、今後も授業改善に取り組んでいきます。

また、学習環境を整えるための取り組みとして、授業開始3分前には着席し、チャイムで授業を始める「チャイムあいさつ」を励行しています。学習規律が整うことで授業に集中でき、話し合いの活動における学習効果が高まります。さらに、本校でも、より授業に集中しやすくなるよう教室前面の掲示物を必要最小限にとどめ、不必要な情報が入らないようにして、より授業に集中しやすくなるよう教室掲示を工夫したり、カバンなどの用具はロッカーにしまい、机には掛けないようにする、清掃活動を徹底して行うなど、学習環境が整った状態で授業を行うように努めてまいりました。

さらに、学校で習った学習内容を定着させ、それぞれの思考・判断に生かせるようにするには、家庭学習が欠かせません。今年度から「スタディサプリ」を導入して、さらなる学力の向上のために、宿題だけでなく個々の課題に合わせた学習の支援が行える体制を整えてまいりました。ご家庭でも、ご支援・ご協力をお願いいたします。